

アメリカンフットボールの北海道学生選手権は13日、札幌市円山陸上競技場で第8節の1、2部各1試合を行った。甲子園ボウルにつながる1部リーグは、ここまで4戦全勝同士の北海学園大と北海道大が対戦。北海道大がエースRB荒山赳（4年、東京・麻布高）の4TDなどで50-20と快勝し、2年ぶり26度目の優勝を決めた。

北海道大は、11月3日の全日本大学アメリカンフットボール選手権大会の東日本代表校決定戦準決勝・パインボウル（仙台市陸上競技場）に北海道代表として出場し、東北学生リーグ優勝校と対戦する。同ボウルの勝利校が、甲子園ボウルの出場権をかけて東日本代表校決定戦（12月1日、横浜スタジアム）で関東代表校と対戦する。

2部は3戦全勝同士の室蘭工業大と東京農業大が対戦し、室蘭工業大が15-8で優勝した。室蘭工業大は10月27日に1部最下位校と入れ替え戦を行う。

北海道大-北海学園大は第1Q、北海道大がセフティで先制すると、続くキックオフでRB荒山が65ヤードのリターンTDで9-0とリード。第2Qは点の取り合いとなり、北海学園大がRB丸山哲央（4年、旭川実業高）のTDランと、QB佐和田健悟（4年、名寄高）からWR佐藤玲太（2年、札幌光星高）へのTDパスで13-9と逆転したが、北海道大もDB天内太生（4年、大麻高）の91ヤードキックオフリターンTDで16-13と再逆転。前半終了間際にはTE猪川健（4年、広島学院高）のTDキャッチで23-13として折り返した。

第3Qも接戦となり、北海学園大がRB丸山のTDランで追い上げると、北海道大もRB荒山が16ヤードのTDランを決めて30-20。明暗が分かれたのが第4Qの攻防だった。北海道大は3分過ぎにDB内橋宏太郎（3年、大阪・千里高）がパスをインターセプトし、そのまま51ヤードをリターンしてTD。RB荒山も2本のTDランを決めて50-20と加点。一方北海学園大は、QB佐和田が4Qだけで3本のインターセプトを許してパス攻撃を封じられ、反撃の芽を摘まれた。

北海道大の村井公寿監督は「今春のオープン戦で負けてから、北海学園大対策を準備してきた。ワイルドキャットやアンバランスラインからの攻撃など、今日のために練習してきたのが実を結んだ。守備も辛抱して頑張った。総合力で勝った」と選手たちの頑張りをたたえた。キックオフリターンを含めて263ヤード、4TDと勝利の原動力となったRB荒山も「このオフenseで勝てるって信じて、ハードワークを続けてきたかいがあった」と胸を張

り、主将のLB百瀬皓太（4年、兵庫・報徳学園高）は「1年生QBの茨木大輔（兵庫・六甲学院高）も急成長した。もう一回りフィジカルアップしてパインボウルに挑みたい」と決意していた。

2部優勝を争った室蘭工業大―東京農業大戦は、室蘭工業大がRB靱山竜也（2年、愛知・武豊高）とRB加藤裕哉（4年、小樽桜陽高）のTDで競り勝った。半沢伸太郎監督は「チームワークが勝因。去年の入れ替え戦で負けた悔しさをばねにした1年だった」と振り返り、主将としてもチームを引っ張ったQB富田克也（4年、札幌新川高）は「入れ替え戦は、4年間やってきたことすべてをぶつけ、悔いのない試合をしたい」と6年ぶりの1部復帰に向けて力を込めた。